

令和元年度第1回諫早市まちづくり総合戦略推進会議  
会議記録（要旨）

日時：令和元年7月24日（水）

14：00～16：00

場所：諫早市役所5階 大会議室

【会議次第】

1 開会

2 協議事項

- （1）諫早市まち・ひと・しごと創生総合戦略 推進スケジュールについて
- （2）長崎県、諫早市等の人口等の動向について
- （3）諫早市まち・ひと・しごと創生総合戦略の取組状況について

## 【要旨】

(会長)

協議事項に沿って会議を進める。

- (1) 諫早市まち・ひと・しごと創生総合戦略の推進スケジュールについて
- (2) 長崎県、諫早市等の人口等の動向について
- (3) 諫早市まち・ひと・しごと創生総合戦略の取組状況について

事務局から一括して説明をお願いする。

(事務局)

- 資料1 諫早市まち・ひと・しごと創生総合戦略の推進スケジュールの説明
- 資料2 長崎県、諫早市等の人口等の動向の説明
- 資料3 諫早市まち・ひと・しごと創生総合戦略の取組状況の説明

(会長)

事務局から説明に対し、意見・質問等はないか。

(委員)

基本目標2「新しいひとの流れをつくる」について、計画策定にあたり留意した点を教えていただきたい。

(事務局)

新しいひとの流れをつくるについては、移住希望者の視点に立ち、移住に関する総合的な環境の整備や情報提供、若者の東京や福岡方面への転出が多数及んでいることから、大学等との連携強化、地元 企業への就職支援、本市の魅力づくりや情報発信に努めること、地域外等の客観的な視点の活用により新しいひとの流れを加速することを基本的方向としている。

(会長)

自然減を止めることは中々難しいと思うが、転入・転出を均衡させる取組について、何か意見はないか。

(委員)

市内の職場に大村市や雲仙市の近隣市から通勤している方がおられる。その理由として、近隣市の方が土地代や保育料が安く、交通の便も良いということを知っている。

基本目標1と2は一定の成果を得ていると思うが、基本目標3の「結婚・出産・子育ての希望をかなえる」については、市で実施された子育て家庭に対するアンケート調査において、「子育てがしにくい」が3割、「子育てに関する経済的負担が大きい」が5割、「市内で子どもと一緒に遊べる場所が少ない」が7割という結果であったことから、この結果をしっかりと受けとめ計画に反映してもらいたい。

また、10月から保育料の無償化が実施されるので、保育料の財源は他の子育て

て支援に充ててほしいと思う。

(委員)

「諫早市で子育てがしたい」と思われるような環境、教育を含め子育ての質を上げるような具体的な施策があるといいと思う。

(事務局)

本市では学校教育だけでなく、地域の方と連携し社会教育にも力を入れている。小中学校では「ふるさと愛育成事業」に取り組んでおり、地域の方々と一緒に地域の中で農業体験や自然体験等を実施しながら郷土愛を育み、諫早を愛し、将来的に諫早で働きたいと思えるような教育を推進している。また、地元の事業所への職場体験学習やキャリア教育も実施している。

(委員)

転入・転出の細かい分析を行った上で、ターゲットに基づいた取組を実施していくべきと思う。

ママ友同士で子育て支援情報が流れていると聞いており、子育て世代に、どういう情報を流していくかが大事である。

大学進学率が高まっている中、市内中小企業の大卒採用を後押しする支援が必要ではないか。また、若者が夢を持てるように起業しやすい環境を整える必要がある。なお、若者はスマートフォンから情報を入手しており、SNSなどによる情報発信が効果的と思う。

KPIである「一人当たりの観光消費額」の伸び悩みをどう解決するか考えるべきと思う。

(事務局)

観光入込客数及び述べ宿泊数の増加は、V・ファーレン長崎のJ1昇格による観戦客の増加や市内スポーツ施設を利用した合宿によるものであるが、一方で観光消費額が上昇してないというのは課題である。今後、諫早市の食や遊べる場所などPRをさらにしていかなければいけないと感じている。

(会長)

観光消費額については全体額を分析することも大切である。

(委員)

総合戦略は平成30年3月に改訂されているが、基本目標1「魅力あるしごとをつくる」の数値目標である「雇用創出数」を改訂した経緯を教えてください。

森山町は生活必需品を購入できる店舗が少ないため、市に対し小売店舗の誘致について提案を行ったことがあり、市の回答は人口減少等により新たな店舗の立地は難しいと考えており、地域の方の生活必需品の購入については商工会議所、商工会等と連携し検討していきたいとの回答であった。買い物タクシーの導入など早期の対応をお願いしたいと思っている。

(事務局)

総合戦略は毎年、取組状況の検証を行っており、平成29年度にはこれまでの取組状況や当会議の意見等を踏まえ、KPIの目標値を引き上げるなどの改訂を行っており、「雇用創出数」は、西諫早産業団地の敷地追加や企業誘致促進地区内での新たな雇用の場の創出が見込まれたことから目標値の引上げを行ったものである。

(委員)

今年度から実施の「新婚生活支援事業」は対象者が34歳未満であるなど要件が厳しいと思う。要件を緩和してはどうか。

地域活性化グループである小長井プロジェクトでは、フルーツバス停傍の休耕田にひまわりを植えたところ、開花時期に県外観光客が多く来訪されたが、近隣に駐車場がなく何か対応ができないかと思っている。

知人が多良見町から大村市に異動した理由について尋ねると、諫早市と比べ保育料が安い、土地代が低い等の情報をママ友から聞いたことがきっかけであった。

(会長)

魅力あるまち、ひと、しごとにしていくための意見を各委員からいただいているが、市の魅力を伝えるシティプロモーションに磨きをかけていかないといけないと思う。また、当会議で出された意見を各地域で実行に移す若手組織の必要性を感じている。

その他、転入・転出を均衡させるためのヒントはどこにあると思うか。

(委員)

市外に就職することは仕方ない部分があると思うが、市外に居住するというものについては目を向けていかななくてはいけない部分と思っている。

市外居住で市内に通勤している人に対し、なぜ市外に居住しているのか率直な意見を聞いてみるのもいいと思う。

諫早市長期人口ビジョンにおける2060年に13万人程度を目指すという将来展望は中々厳しい目標だと思う。人口が減少することは避けられない状況の中で、人口減少に対応したまちをつくり、減少の幅を抑える取組を進めていくべきと考える。

(事務局)

第2回会議以降では第2期総合戦略（骨子案）をお示しすることとしており、新たな取組、KPIの見直し等についてご意見をいただきたいと考えている。人口減少の幅をどのように抑えていくべきかということについても議論させていただきたいと思う。

(会長)

人口の将来展望については、諫早市は県央に位置し利便性が高い地区であるという広域的な視点を忘れてはいけないと考えている。

(委員)

若い世代を集めて意見を聞いてみる機会をつくるというのはいいことだと思う。魅力あるまちづくりの一環として、子育て支援や教育支援について、他市よりも優れた取組が1つでもあれば、まちの魅力となり転入増につながるのではないかと思う。

(委員)

移住支援金制度について、対象者が東京圏からの移住に限定されているが、実際は福岡県や関西圏にも流出している。一旦就職等で県外に転出後、親の介護等で市内に戻ってくることもあるので、対象区域を緩和してほしいと思う。また、本制度のこれまでの実績がわかれば教えてほしい。

(事務局)

移住支援金制度は今年度から事業を開始した制度であるため、実績はない状況である。

(委員)

私は市外出身で数年前に、長崎県の就職情報サイト「Nなび」を通じて、市内の会社に就職した。今後、生活していて感じたことについて意見が出せればと思っている。

(委員)

企業の人手不足、学生の就学サポーターの配置、定住人口の拡大という課題を解決する新就学スキームを検討している。新卒及びUターン者を対象に奨学金をサポートする制度を創設したいと考えている。

また、企業問題のサテライトキャンパスを設置し、経営者と学生とで内部問題解決を図っていきたいと思っている。

大学にできることとして、地域課題の解決を図るにあたり大学と連携した取組が行えればと思っている。

次回以降の会議でお示しできればと思っている。

(委員)

地方創生推進交付金の活用状況を教えてほしい。

(事務局)

歴史の道を活かした観光・文化交流事業、諫早湾干拓で創出された資源を活かした賑わい創出事業、ながさき移住サポートセンターの運営支援など7事業に取り組んでいる。

(委員)

市のフェイスブックを分野ごとに発信していく考えはないか。また、市ホームページに市内の画像を掲載し、閲覧者がシェアできるような工夫があればいいと

思う。

(事務局)

市のフェイスブックを分野ごとに発信していくことは現状では考えていないが、昨年度からLINEによる防災・イベント等の情報発信を始めたところである。市ホームページにおいても最新情報をお伝えできるようにしていきたい。

(委員)

私は市内に居住し長崎市に勤務している。現在、大村市から長崎市浜町まではバスで40分であり通勤圏内であることから、今まで長崎市のベッドタウンだった諫早市も、魅力ある取組をしていかなければ人口減少に歯止めがかからなくなるのではないかと思う。

(委員)

市内移住者には色々なアイデアを持った人たちがいるのではないか。諫早ケーブルメディアにおいて、移住者を集めた番組を開催してはどうかと思う。

(委員)

飯盛町では元気なシニア世代が一人で買い物に行けない高齢者を店舗に連れて行く活動や子育て支援活動等を有償で行う「地域共生助け合い隊」を結成し活動を行っている。

ひと・ひとフォーラムの実行委員会には学生が加入し、活発な意見を出されている。

(会長)

地域の魅力づくりは地域主導で実行していかないと活性化はできないと思うし、行政は地域組織をバックアップするような体制がよいのではないか。

その実行段階では若い世代を組織に加えながら活動していくことが大事ではないかと思う。